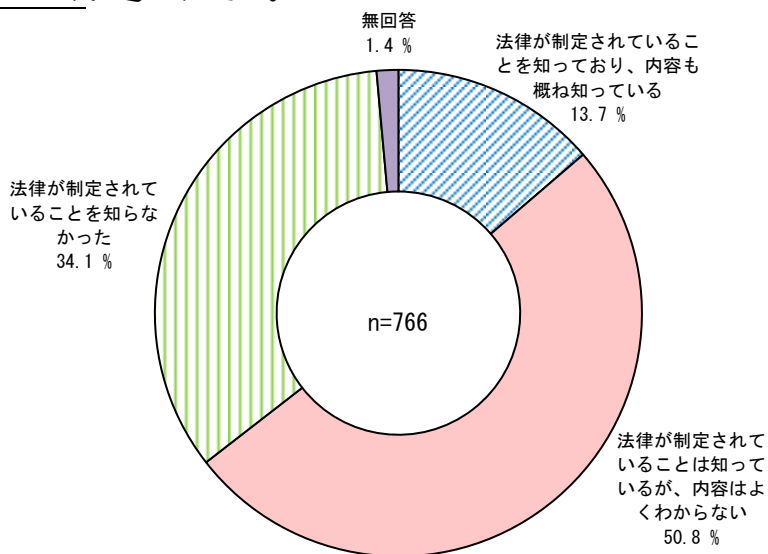


6 アイヌ施策・アイヌの人々に対する意識について

問1 令和元年に「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律（アイヌ施策推進法）」が施行されました。あなたは、この法律を知っていますか。

次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「法律が制定されていることは知っているが、内容はよくわからない」(50.8%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「法律が制定されていることを知らなかった」(34.1%)、「法律が制定されていることを知り、内容も概ね知っている」(13.7%)の順となっている。

【圏域別】

「法律が制定されていることは知っているが、内容はよくわからない」については、道南連携地域(58.0%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(56.0%)となっている。「法律が制定されていることを知らなかった」については、オホーツク連携地域(44.4%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(43.5%)となっている。

【人口規模別】

「法律が制定されていることは知っているが、内容はよくわからない」については、人口10万人以上の市(55.0%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(52.3%)となっている。「法律が制定されていることを知らなかった」については、町村部(36.4%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(34.9%)となっている。

【性別】

「法律が制定されていることは知っているが、内容はよくわからない」については、男性(55.3%)、女性(48.3%)となっており、「法律が制定されていることを知らなかった」については、男性(25.7%)、女性(39.5%)となっている。

【年代別】

「法律が制定されていることは知っているが、内容はよくわからない」については、60～69歳(60.6%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(60.0%)となっている。「法律が制定されていることを知らなかった」については、30～39歳(54.3%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(49.5%)となっている。

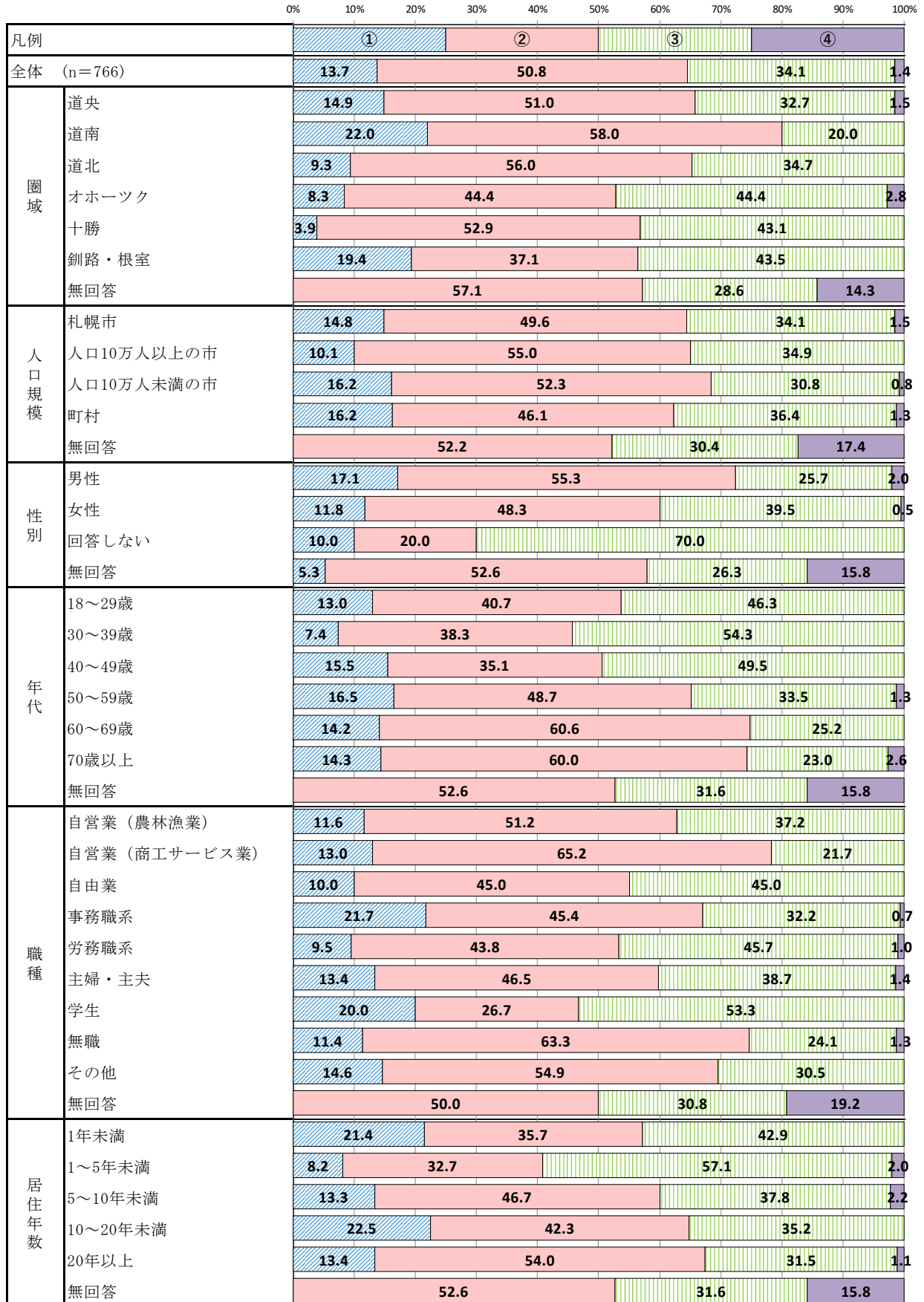
【職種別】

「法律が制定されていることは知っているが、内容はよくわからない」については、自営業(商工サービス業)(65.2%)が最も割合が高く、次いで無職(63.3%)となっている。「法律が制定されていることを知らなかった」については、学生(53.3%)が最も割合が高く、次いで労務職系(45.7%)となっている。

【居住年数別】

「法律が制定されていることは知っているが、内容はよくわからない」については、20年以上(54.0%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(46.7%)となっている。「法律が制定されていることを知らなかった」については、1～5年未満(57.1%)が最も割合が高く、次いで1年未満(42.9%)となっている。

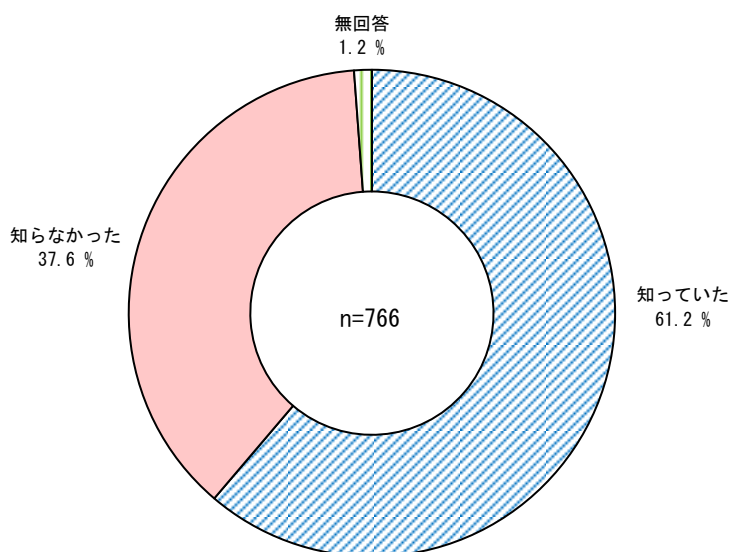
- ①法律が制定されていることを知っており、内容も概ね知っている
 ②法律が制定されていることは知っているが、内容はよくわからない
 ③法律が制定されていることを知らなかった
 ④無回答



問2 アイヌ施策推進法では、「アイヌの人々に対して、アイヌであることを理由として、差別することその他の権利利益を侵害すること」は禁止されています。

あなたは、このことを知っていましたか。

次の中から 1つだけ お選びください。



【全体】

「知っていた」(61.2%)と答えた方の割合が最も高くなっている。

【圏域別】

「知っていた」については、釧路・根室連携地域(66.1%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(66.0%)となっている。「知らなかった」については、十勝連携地域(49.0%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(44.0%)となっている。

【人口規模別】

「知っていた」については、人口10万人未満の市(64.6%)が最も割合が高く、次いで札幌市(63.3%)となっている。「知らなかった」については、町村部(40.3%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(39.2%)となっている。

【性別】

「知っていた」については、男性(66.4%)、女性(58.9%)となっている。

【年代別】

「知っていた」については、60～69歳(70.1%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(63.9%)となっている。「知らなかった」については、18～29歳(51.9%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(50.6%)となっている。

【職種別】

「知っていた」については、自営業(商工サービス業)(82.6%)が最も割合が高く、次いで事務職系(71.7%)となっている。「知らなかった」については、学生(73.3%)が最も割合が高く、次いで労務職系(43.8%)となっている。

【居住年数別】

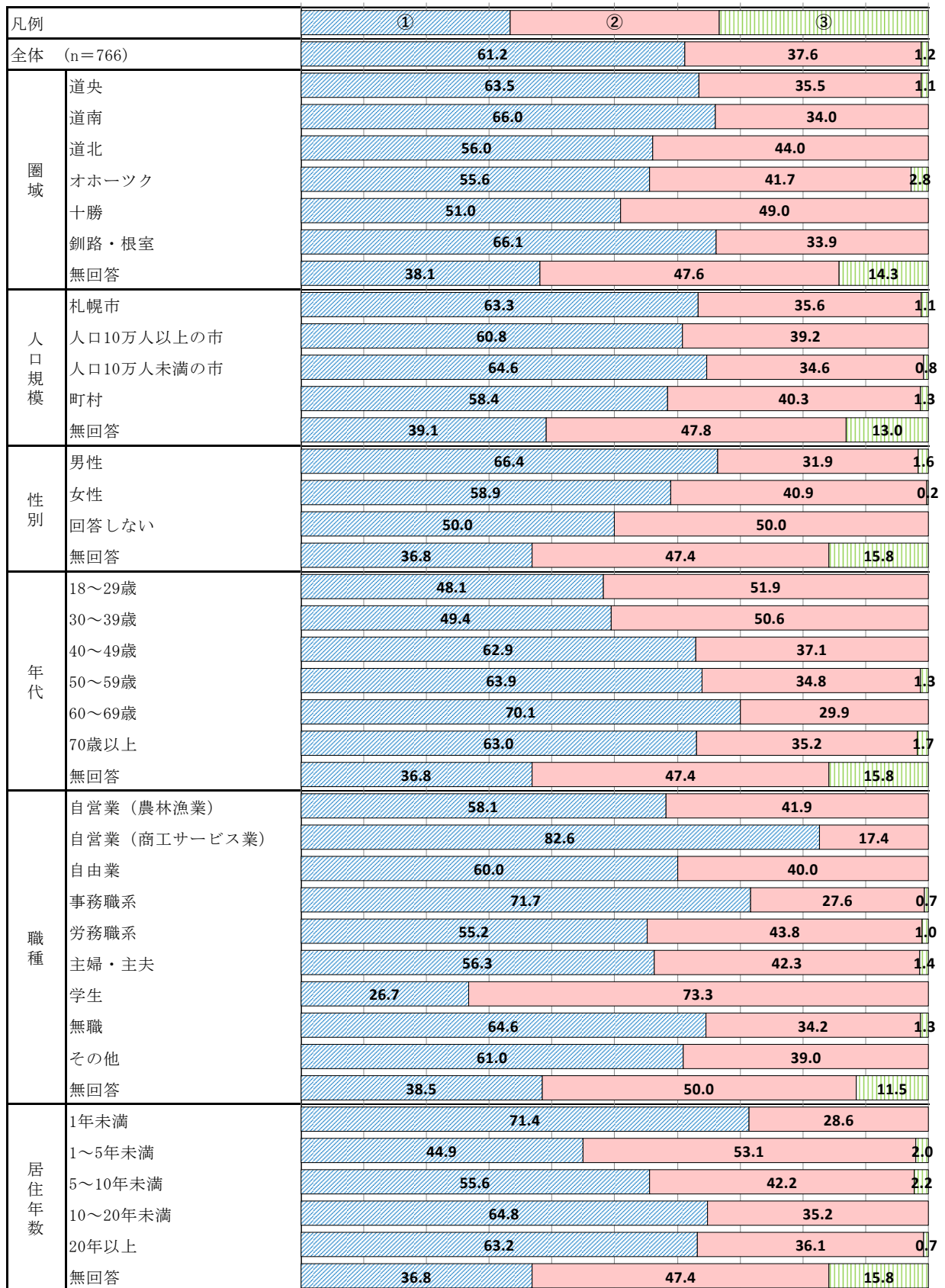
「知っていた」については、1年未満(71.4%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(64.8%)となっている。「知らなかった」については、1～5年未満(53.1%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(42.2%)となっている。

①知っていた

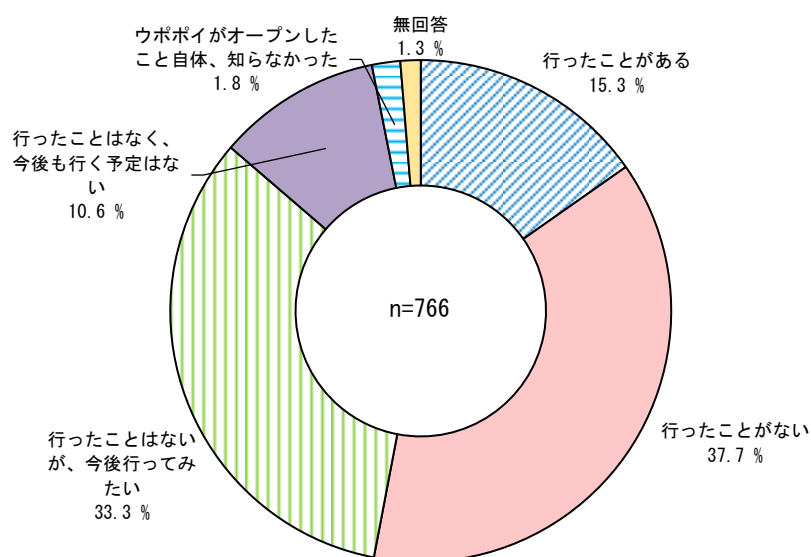
②知らなかった

③無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問3 令和2年7月に、白老町に「民族共生象徴空間（ウポポイ）」がオープンしました。
 あなたはこの施設に行ったことがありますか。
 次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「行ったことがない」(37.7%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「行ったことはないが、今後行ってみたい」(33.3%)、「行ったことがある」(15.3%)の順となっている。

【圏域別】

「行ったことがない」については、オホーツク連携地域(58.3%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(51.6%)となっている。「行ったことはないが、今後行ってみたい」については、十勝連携地域(39.2%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(38.7%)となっている。

【人口規模別】

「行ったことがない」については、町村部(44.2%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(42.9%)となっている。「行ったことはないが、今後行ってみたい」については、町村部(36.4%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(35.4%)となっている。

【性別】

「行ったことがない」については、男性(39.8%)、女性(35.8%)となっており、「行ったことはないが、今後行ってみたい」については、男性(30.9%)、女性(36.7%)となっている。

【年代別】

「行ったことがない」については、70歳以上(49.6%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(47.2%)となっている。「行ったことはないが、今後行ってみたい」については、30～39歳(44.4%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(42.3%)となっている。

【職種別】

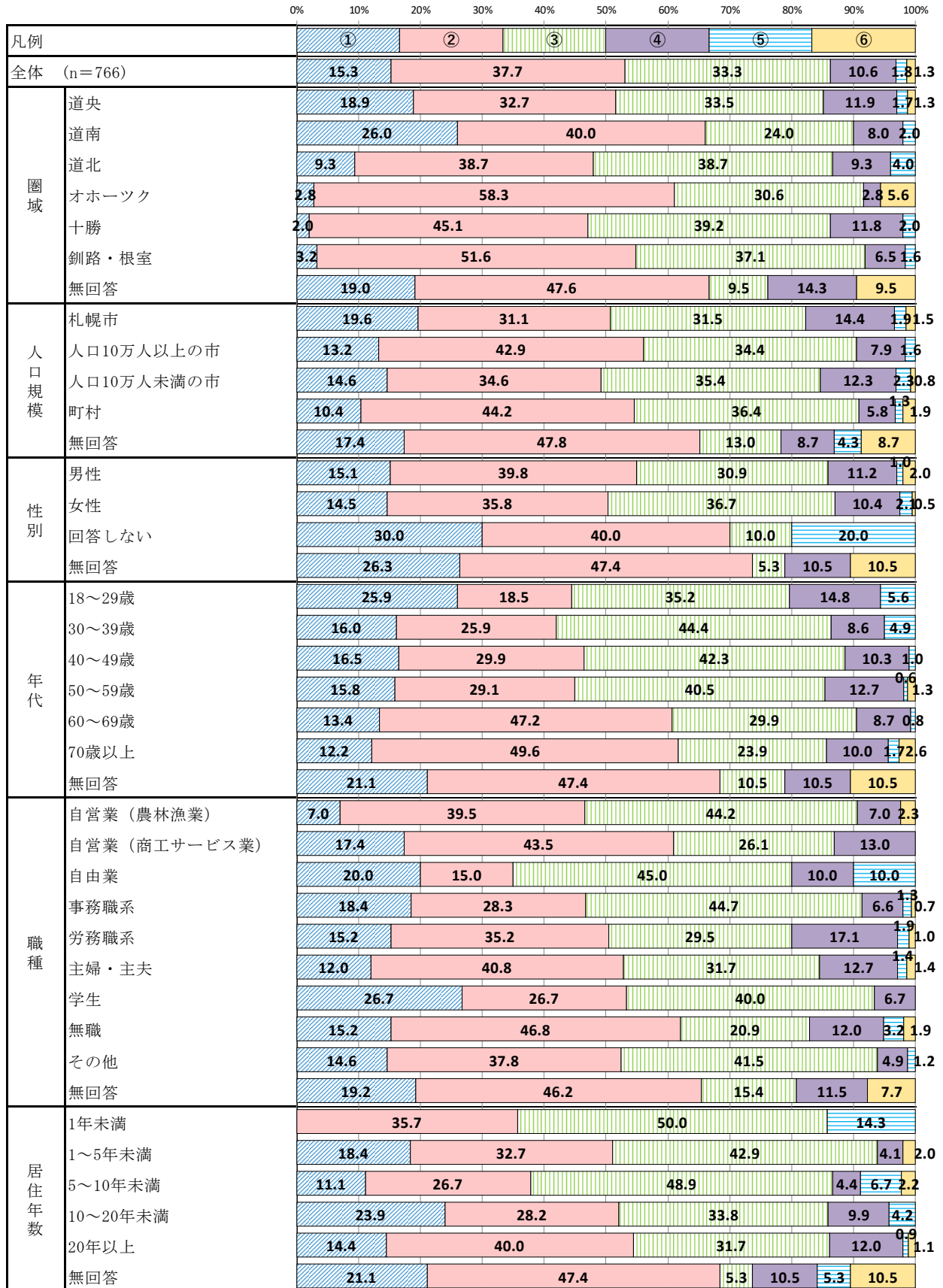
「行ったことがない」については、無職(46.8%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス業)(43.5%)となっている。「行ったことはないが、今後行ってみたい」については、自由業(45.0%)が最も割合が高く、次いで事務職系(44.7%)となっている。

【居住年数別】

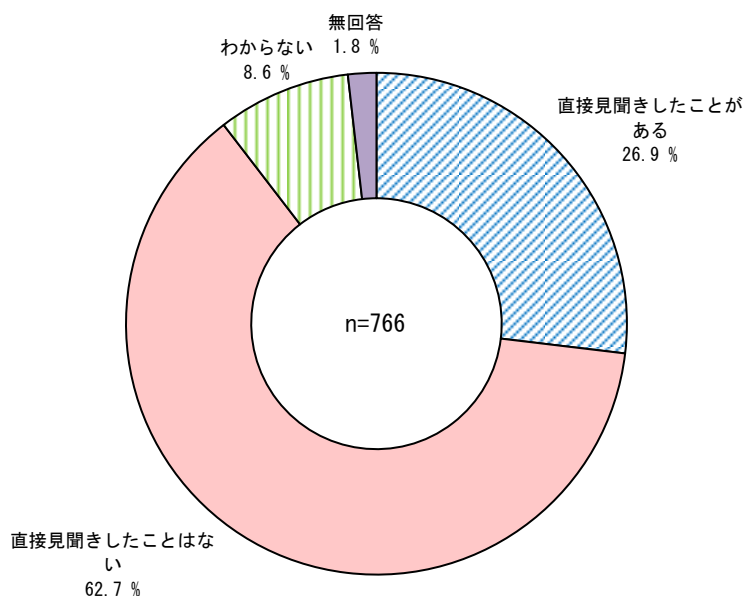
「行ったことがない」については、20年以上(40.0%)が最も割合が高く、次いで1年未満(35.7%)となっている。「行ったことはないが、今後行ってみたい」については、1年未満(50.0%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(48.9%)となっている。

- ①行ったことがある ②行ったことがない
 ③行ったことはないが、今後行ってみたい
 ④行ったことはなく、今後も行く予定はない
 ⑤ウボボイがオープンしたこと自体、知らなかった

⑥無回答



問4 あなたは、アイヌの人々への差別・偏見などを直接、見聞きしたことがありますか。
 (メディアや SNS への書き込み等を含みます。)
 あてはまるものを1つだけお選びください。



【全体】

「直接見聞きしたことはない」(62.7%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「直接見聞きしたことがある」(26.9%)、「わからない」(8.6%)の順となっている。

【圏域別】

「直接見聞きしたことはない」については、道南連携地域(72.0%)が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域(69.4%)となっている。「直接見聞きしたことがある」については、十勝連携地域(33.3%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(32.3%)となっている。

【人口規模別】

「直接見聞きしたことはない」については、人口10万人未満の市(72.3%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(65.6%)となっている。「直接見聞きしたことがある」については、札幌市(30.4%)が最も割合が高く、次いで町村部(29.2%)となっている。

【性別】

「直接見聞きしたことはない」については、男性(60.2%)、女性(64.9%)となっており、「直接見聞きしたことがある」については、男性(28.6%)、女性(26.1%)となっている。

【年代別】

「直接見聞きしたことはない」については、18～29歳(79.6%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(66.0%)となっている。「直接見聞きしたことがある」については、50～59歳(31.6%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(31.5%)となっている。

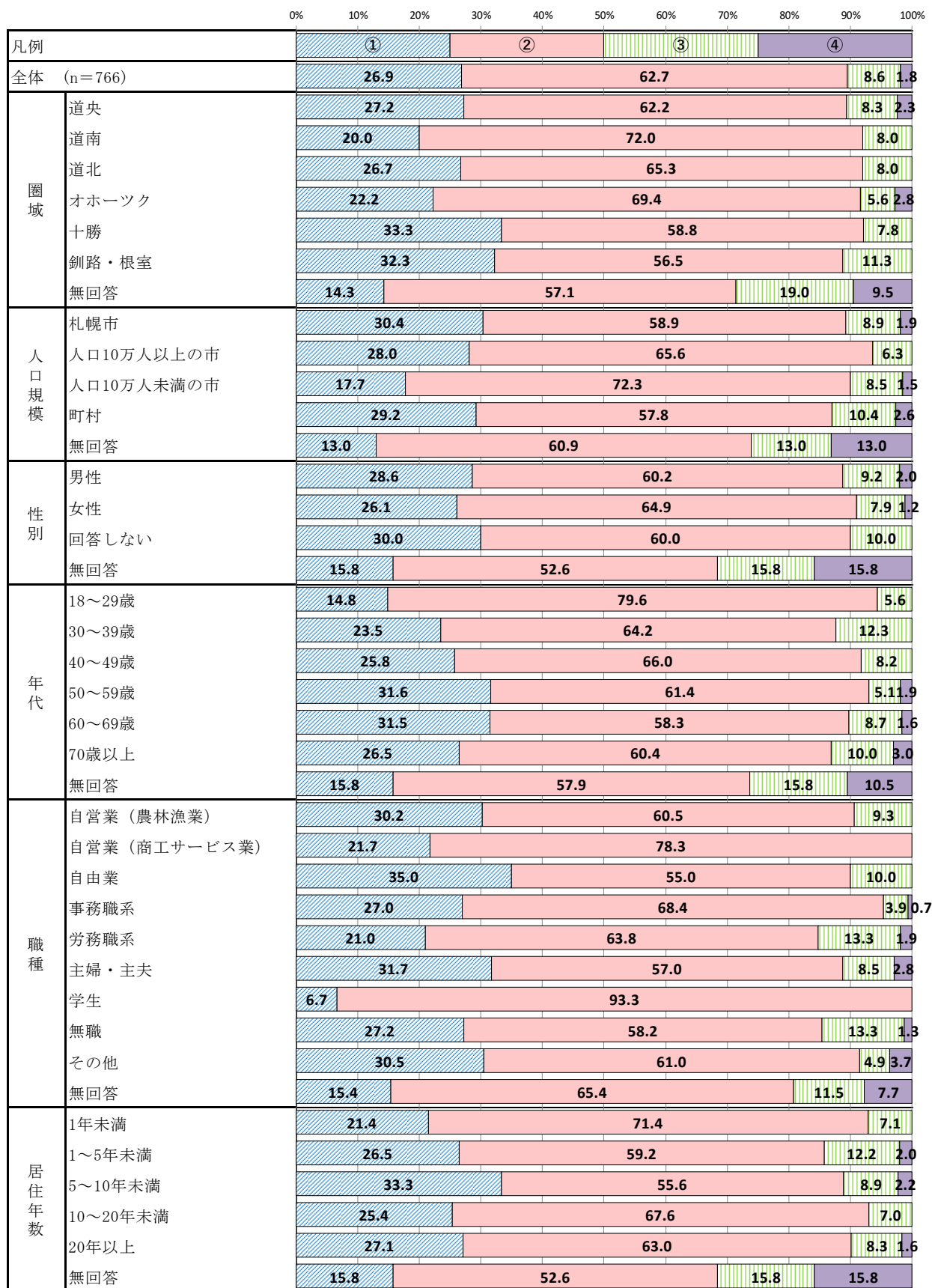
【職種別】

「直接見聞きしたことはない」については、学生(93.3%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス業)(78.3%)となっている。「直接見聞きしたことがある」については、自由業(35.0%)が最も割合が高く、次いで主婦・主夫(31.7%)となっている。

【居住年数別】

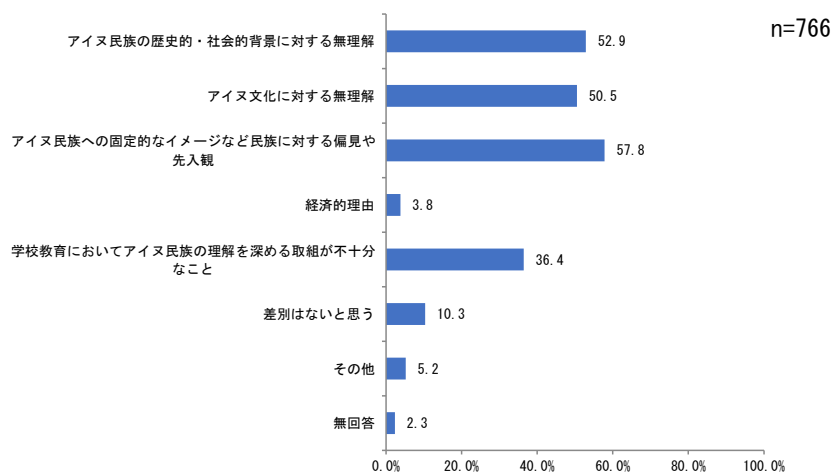
「直接見聞きしたことはない」については、1年未満(71.4%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(67.6%)となっている。「直接見聞きしたことがある」については、5～10年未満(33.3%)が最も割合が高く、次いで20年以上(27.1%)となっている。

①直接見聞きしたことがある ②直接見聞きしたことはない
③わからない ④無回答



問5 アイヌに対する差別の原因・背景は、特に何だと思えますか。

次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「アイヌ民族への固定的なイメージなど民族に対する偏見や先入観」(57.8%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「アイヌ民族の歴史的・社会的背景に対する無理解」(52.9%)、「アイヌ文化に対する無理解」(50.5%)の順となっている。

【圏域別】

「アイヌ民族への固定的なイメージなど民族に対する偏見や先入観」については、十勝連携地域(68.6%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(59.7%)となっている。「アイヌ民族の歴史的・社会的背景に対する無理解」については、道北連携地域(57.3%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(56.0%)となっている。

【人口規模別】

「アイヌ民族への固定的なイメージなど民族に対する偏見や先入観」については、人口10万人以上の市(61.4%)が最も割合が高く、次いで札幌市(58.9%)となっている。「アイヌ民族の歴史的・社会的背景に対する無理解」については、人口10万人未満の市(59.2%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(55.0%)となっている。

【性別】

「アイヌ民族への固定的なイメージなど民族に対する偏見や先入観」については、男性(55.6%)、女性(60.0%)となっており、「アイヌ民族の歴史的・社会的背景に対する無理解」については、男性(54.3%)、女性(52.9%)となっている。

【年代別】

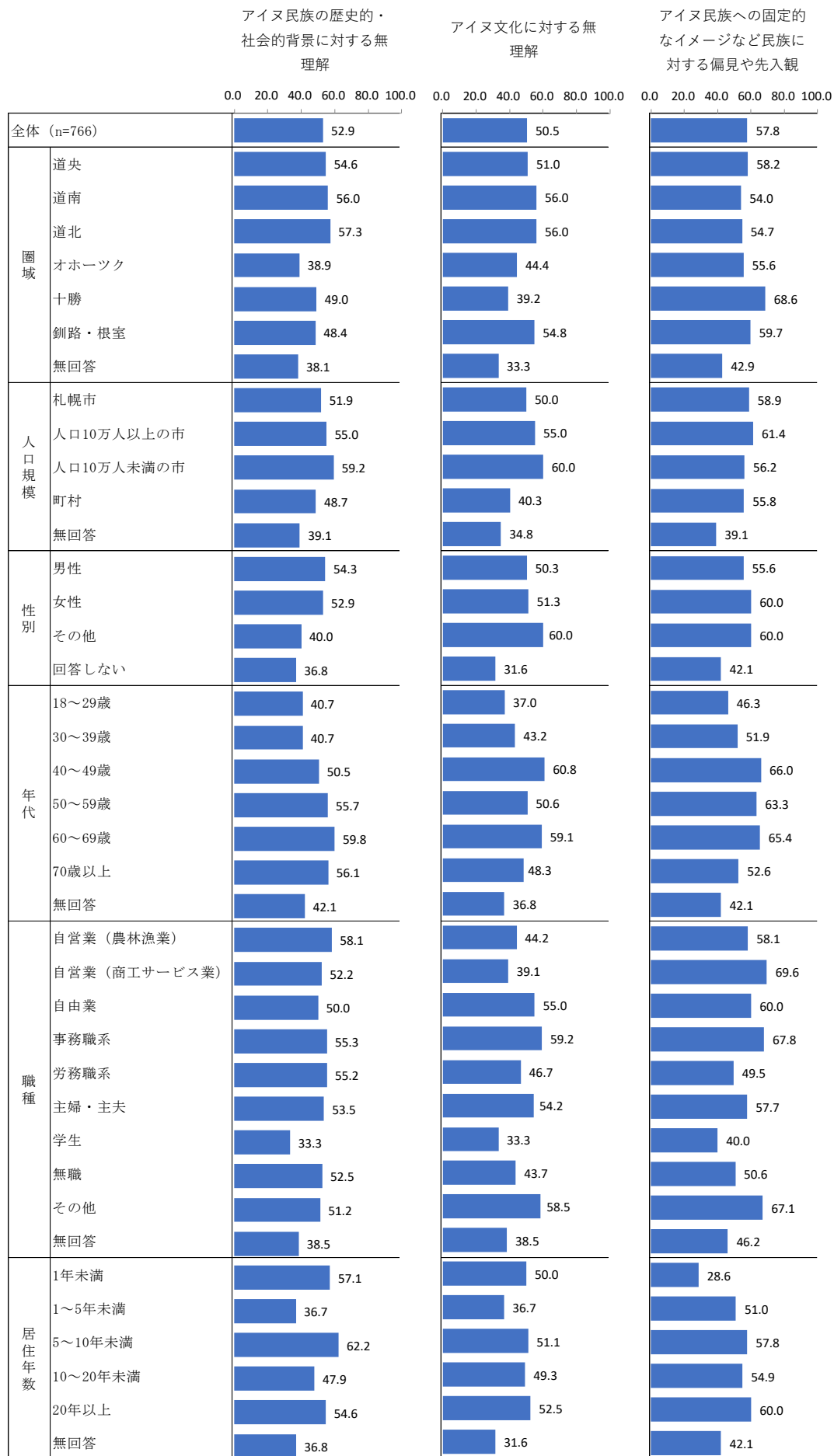
「アイヌ民族への固定的なイメージなど民族に対する偏見や先入観」については、40～49歳(66.0%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(65.4%)となっている。「アイヌ民族の歴史的・社会的背景に対する無理解」については、60～69歳(59.8%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(56.1%)となっている。

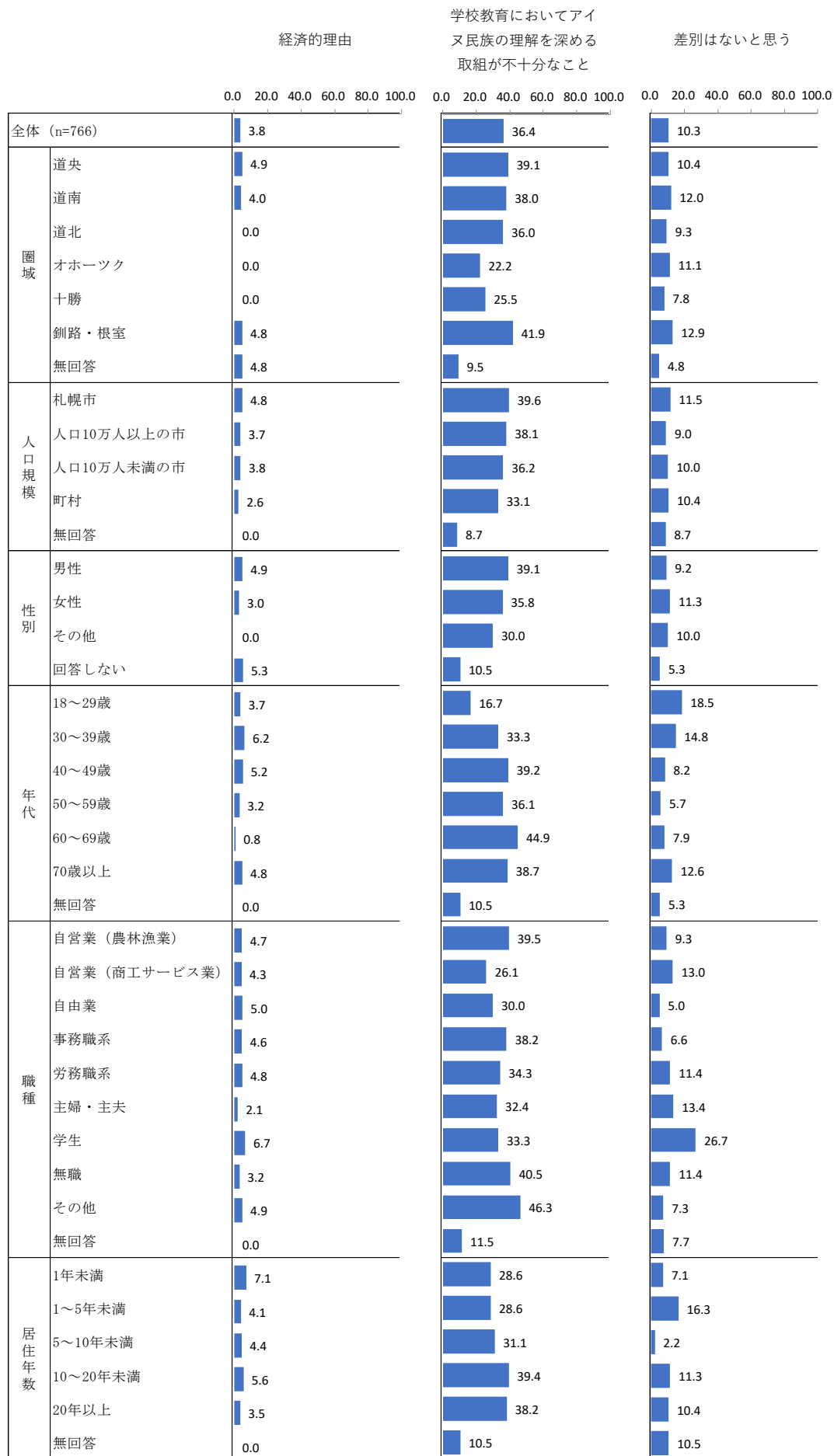
【職種別】

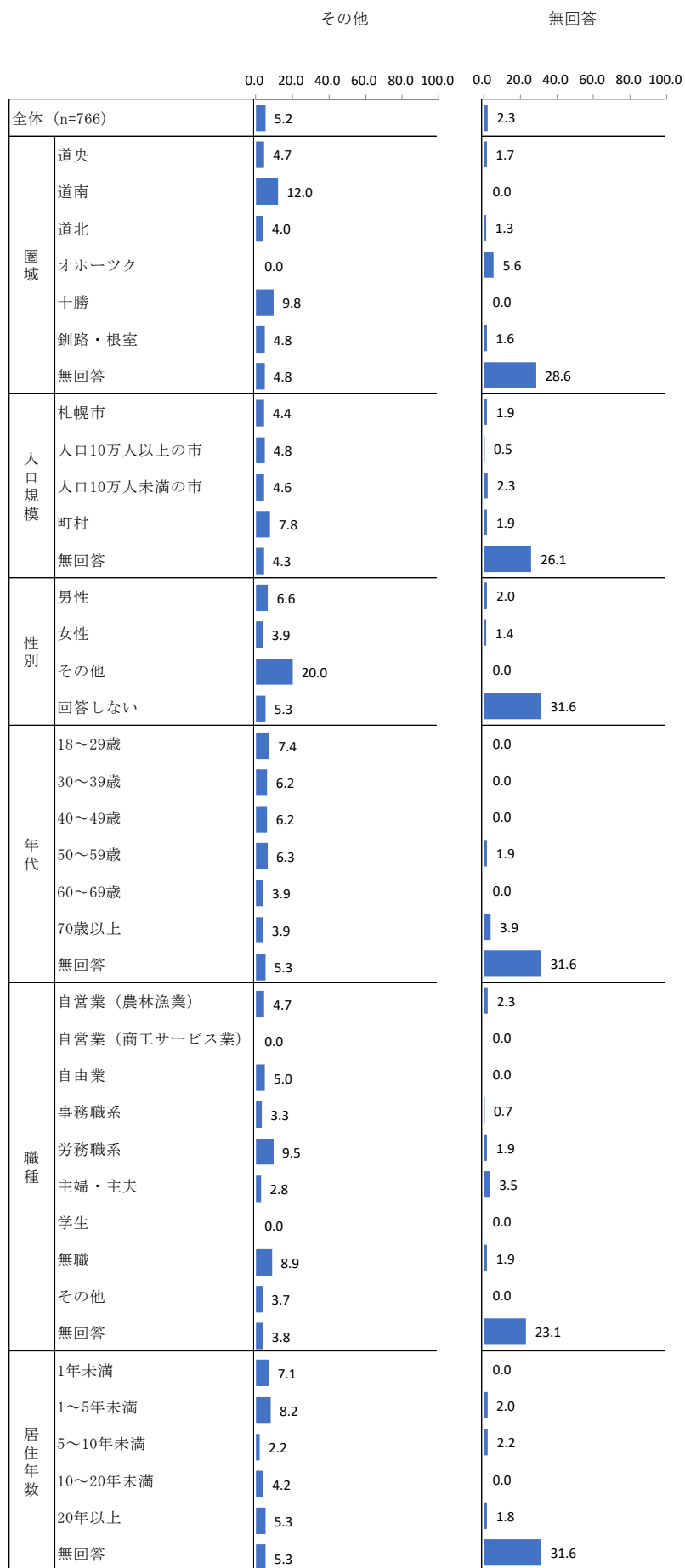
「アイヌ民族への固定的なイメージなど民族に対する偏見や先入観」については、自営業(商工サービス業)(69.6%)が最も割合が高く、次いで事務職系(67.8%)となっている。「アイヌ民族の歴史的・社会的背景に対する無理解」については、自営業(農林漁業)(58.1%)が最も割合が高く、次いで事務職系(55.3%)となっている。

【居住年数別】

「アイヌ民族への固定的なイメージなど民族に対する偏見や先入観」については、20年以上(60.0%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(57.8%)となっている。「アイヌ民族の歴史的・社会的背景に対する無理解」については、5～10年未満(62.2%)が最も割合が高く、次いで1年未満(57.1%)となっている。







「アイヌ施策・アイヌの人々に対する意識について」の調査を終えて

アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律（アイヌ施策推進法）の認知度については、「法律が制定されていることを知っており、内容も概ね知っている」が 13.7%、「法律が制定されていることは知っているが、内容はよくわからない」が 50.8%、「法律が制定されていることを知らなかった」が 34.1%となっている。

また、アイヌ施策推進法において、「アイヌの人々に対する差別・権利利益の侵害を禁止している」ことについての認知度は、「知っていた」が 61.2%、「知らなかった」が 37.6%となっている。

民族共生象徴空間（ウポポイ）への訪問の有無については、「行ったことがある」が 15.3%、「行ったことがない」が 37.7%、「行ったことはないが、今後行ってみたい」が 33.3%、「行ったことはなく、今後行く予定はない」が 10.6%、「ウポポイがオープンしたこと自体、知らなかった」が 1.8%となっている。

アイヌの人々への差別・偏見の見聞きの有無については、「直接見聞きしたことがある」が 26.9%、「直接見聞きしたことはない」が 62.7%、「わからない」が 8.6%となっている。

アイヌの人々に対する差別の原因・背景は何かについては、「アイヌ民族への固定的なイメージなど民族に対する偏見や先入観」が 57.8%で最も多く、次いで「アイヌ民族の歴史的・社会的背景に対する無理解」が 52.9%、「アイヌ文化に対する無理解」が 50.5%となっている。

今回の調査により、アイヌの人々への差別・偏見について、「直接見聞きしたことがある」が 2割を超えており、また、差別の原因・背景として、アイヌ民族に対する偏見や先入観、歴史的・社会的背景やアイヌ文化に対する無理解がそれぞれ5割を超えていることが判明した。

こうした結果を踏まえ、次期「北海道アイヌ政策推進方策」の策定に反映させるとともに、当該結果を国と情報共有し、アイヌの人々やアイヌ文化の理解促進に努めていく。

（環境生活部アイヌ政策推進局アイヌ政策課）

